

# ご存じですか！文化財

92

## 「志多見の溜井跡と金兵衛堀」

市指定史跡 昭和30年11月27日指定



問合せ  
生涯学習課  
(☎0480・62・1223)



志多見1-2ほか

利根川流域でありながら、加須市のかつての村々は、農業の用排水に恵まれていまいませんでした。

江戸時代初めの元和7(1621)年に羽生領の代官大河内金兵衛は灌漑に利用するために会の川を締め切り、上流の排水を溜める志多見の溜井を築きました。さらに寛永2(1625)年には、溜井から志多見村、下之村、礼羽村、馬内村など約4kmにわたり用水を開削しました。この用水は右岸の村々の水源となり、

後に人々は金兵衛堀と呼びました。

しかし、洪水と渇水の被害に悩まされた上・下流の村の間では、水をめぐる争いがたびたび起きてきました。溜井の流域では、渇水時の用水不足が一層深刻になり、幕府の井沢弥惣兵衛による新たな治水の方法が取り入れられました。用排水の分離などにより、河川の氾濫が減少することとなります。

その後、溜井は埋め立てられ、金兵衛堀がその姿を残すのみとなっています。



志多見の溜井跡と金兵衛堀